

第 3 回学校活性化勝浦郡地域協議会議事録

〔協議題〕新しい学校の基本コンセプトについて

委員

中学校長からの意見聴取には、よい意見がストレートに出ていると思います。しかし、これまで県は、都合のよい意見を取り上げ、委員等の意見が充分反映されてこなかったと思っています。

初めての委員もおいでるので話をしておきたいのですが、勝浦高校は農業科の分校であるとの前提で協議を進めてほしくないとの意見を持っています。

県教育委員会

勝浦高校の募集定員は、平成 15 年度より、法律に基づく本校基準の 80 名を切り、すでに 60 名となっています。そしてこの数値は、地域の生徒数、生徒の進学希望状況等に基づき算出したものです。今後、勝浦郡の生徒数は平成 30 年には 50 人を切り、徳島県全域でも生徒数は減少するので、他地域からの流入も期待できません。勝浦高校だけ基準を適用しないのでは、県民の理解が得られないと考えます。

普通科につきましては、勝浦郡内から勝浦高校普通科に進学している生徒が非常に少ない現実があります。昨年度、40 名の募集に対して郡外も含め 16 名の希望しかありませんでした。こうした現実をしっかりと見ていただきたいと思います。どうすれば、勝浦高校に生徒が集まるかと考えたとき、勝浦でしかできない教育、それは今日まで培われてきた農業教育であると思いますが、県南部唯一の農業高校となれば、他地域からでも生徒が集まる可能性があると考えています。

委員

私は中学校で進路指導に携わってきた一人ですが、勝浦高校の普通科への希望は最終的には増えますし、卒業して良かったとの話はよく聞きますが、希望段階においては、働きかけても希望する生徒が少ないのは事実です。

企業は 1 歩先を進めば成功しますが、教育は 1 歩先ではだめで、100 歩、少なくとも 50 歩先を見通さないといけません。

また、コンプライアンスは重要です。コンプライアンス違反により潰れた企業もあります。私も標準定数法は知っていますし、教育だからといって、コンプライアンス違反の例外としてはいけないと思います。

委員

地域づくりと学校づくりは同じだと思います。徳島県の人口も、80万人が60万人になる中で、上勝のように、思い切った行動を取らなければ、町は壊滅状態になります。だから学校とすれば、分校とか本校とかでなく、魅力があって他地域からでも来てもらえる形を取らなければ、学校がなくなることは明らかです。細かい議論でなく、どのように魅力づくりをし、生き残っていくかを考えることが重要です。

地域全体から見れば、農業だけに絞らず普通科を置いてほしいとの意見は多いでしょう。県は、法的な規制にとらわれず、頑張っている学校や、地域に必要な学校には、応援するようなサポート体制を築いてほしいと思います。今、上勝町には全国から働きたいと望む人が来ていますが、勝浦高校に行きたい、学びたい、そこに焦点を置いて議論し、生き残るか諦めるか、2つに1つの選択ぐらいの気持ちで臨まないといけないと思います。

農業の情勢を言えば、全国の農村は間違いなく壊滅していきっており、政府は農産物の輸出によって、その活路を見出そうとしています。すなわち、日本の人口に匹敵する中国の富裕層を相手に農産物を輸出し農業の再興を図ろうとしています。しかし、それが軌道に乗る前に農業は衰退するかもしれない、そんな岐路に立たされているのが今の農業です。

今後の勝浦高校には、あれもこれもでなく、1点突破でいくことが大切です。その1点とは、きらっと光るもの、子ども達に夢を与えられるものでなければなりません。

委員

農業は食、すなわち生命にかかわる重要な問題であり、決して衰退させてはいけないと思います。

委員

高校選択の際に一番重要なのは、どういう進路（就職）がとれるかだと思います。高校を選んだ時点で自分の将来が決まるのでないかとの危機感をもつ中で、子ども達に選ぶものがないというのは、どんな未来が待っているかが見えないことと同じです。その未来を、農業とするのか、福祉とするのか、また2つの学科とするのか、1つの学科に絞るのか、方法はいくつかあると思いますが、肝心なのは、この学校には、どんな就職先があるのか、どんな道が開けるのかが一番知りたいことです。参考資料の中には、農業経営者に必要な資質・能力が挙げられていますが、これが最終的な目標だと思いますし、これが出来るだけの知識と経験を持てば、どこにでも通用するはずで、子ども達に、この学校に来れば、どんな力が身に付くかわかってもらえるようきちんと示すことが大切だと思います。

(1) 目指す学校像と育てたい生徒像について

委員

ご意見ありませんか。

… …

ご意見はないようです。学校像，生徒像については，漠然としていて論議しにくい面があります。これらについては，教育の専門家である先生方にお任せしてよろしいか。

(2) 設置学科と教育内容について

委員

先程，他の委員より，中学生が高校を選ぶ際は，就職状況がかなりのウエイトを占めるとのことでしたが，分校と本校とでは，就職に関して有利不利があるのかを教えていただきたいと思います。

県教育委員会

本校か分校かということと，就職の有利不利は関係がないと思います。城西高校神山分校の造園土木科，富岡東高校羽ノ浦校の看護科は，それぞれ県下で唯一の教育を行っており，就職は教育内容には影響を受けますが，本校分校とは関係がないと考えております。

分校の話が出ましたので，関連して述べますが，今年4月より富岡東高校の羽ノ浦分校が，本校から独立した独自の教育を展開しているということから，名称を改め「羽ノ浦校」となりました。ここ勝浦でも分校という名称には心理的な抵抗があるようですので，名称については，これを参考にしたいと考えています。具体例で申し上げますと，徳島大学には常三島キャンパスと蔵本キャンパスがあり，それぞれで独自の教育を展開しています。そのようなイメージで捉えていただければと思います。

委員

分校化には反対です。小学校や中学校では，小さくても本校で残っているところもあります。これは，法的に可能でないですか。分校となり，いづれなくなるでは困ります。

県教育委員会

先程も申し上げましたが，法律では，本校の規模は1学年80人を下らないと決まっており，現在60名となっていますので，本校で残すのは難しいということです。今回の再編方針では，分校として存続を図るとなっており，県教

育委員会も、分校として存続を図るとする以上、すぐなくなるような分校ではなく、きらっと光る学校となるようにしたいと考えています。

委員

わかりました。

委員

大学科は農業科としても、小学科は2つでなく、3つ4つなどもっと小さく分けることはできませんか。人数のこともありますが、大学に進学する、LEDを学ぶ、ITを学ぶ、福祉を学ぶ、資格を取るなどと考えたとき、学ぶ内容はそれぞれ異なりますし、一緒にするのは無理があると思いますので、2つの学科では難しいのではないのでしょうか。

ここ10年で生徒数が激減することを思えば、ここ10年が大切なとき、勝負のときです。それなのに、分校になる、校長先生がいなくなる、現在の60名から生徒数も減るでは、果たして乗り切れるのかと思います。普通科を減らす代わりに、他校から福祉や工業の人数をもってきて人数を増やしたり、小学科を細分化すれば、子どもの選択肢も増えるのではないかと思います。逆にそうすれば、80人もクリアでき、分校ではなくなると思います。また先程、地元からの進学者が少ないとの話でしたが、工業や商業に行きたい子にとっては、地元にはないから行けないのです。ただ、全県的に生徒数が減少しているのは理解しています。

分校化には反対で、校長先生を置き、4学科80人として本校で存続できる条件を整え、10年間の猶予期間を与えて様子を見てから判断すべきではないのでしょうか。特に、学校がカラーを出すためには、校長先生の存在は大きいと思います。

県教育委員会

20人ずつ4学科80人とのご要望ですが、現時点でこれまでの多様な教育を展開してきた中で、地域の生徒数減や進学希望がない現状を受けて60名の定員となっています。今の状況で定員だけを増やしても、生徒が集まる可能性はないのではないのでしょうか。それよりも、先程意見としてありましたように、魅力ある学校づくりを考えることが大切ではないのでしょうか。本来ならば、法的には1学級40人と決まっているところを、1学級が何人程度になるかわかりませんが、40人よりは少ない人数であっても、勝浦高校を支援する立場から、子どもの選択肢が増えるよう2学科を設け、その中で大学進学等にも対応できる指導体制を考えているわけです。形の上では2つですが、実質は3つの選択肢があることをご理解いただきたいと思います。

委員

生徒数が少なくなれば、部活動も制限されます。子どもにとって部活動は重要であり、全県で人数が減っている中で、他からでも来てもらえる魅力ある学校にしようとするなら、ある程度の人数規模を確保し、部活動が自由にできることも大切ではないでしょうか。そのために、福祉や工業から20人ずつ取ってきてでも、人数を確保し本校で残してほしいと思います。

先程の話の1クラス20～25人であれば、25人、25人、30人の3クラスとすれば本校として残せます。例えば、進学クラス、資格優先（IT・LED等）の就職クラス、福祉を学ぶクラスをつくってはどうか。そうすれば80名の人数も確保でき、部活動も活性化すると思います。

地域協議会の結論はともかく、私は分校には反対です。

県教育委員会

県下の中学3年生の数は毎年、確実に減少しています。そして、どこの地域でも、同じように定員を確保してほしいとの願いはあります。そんな中で、勝浦高校に今まで以上の定員を確保してほしいとのことですが、それは無理ではないでしょうか。

委員

学科と教育内容は大事ですので、もっと進路が明確に見えるようにした方がよいと思います。農業経営者ならば、自分が苦手とするITやホームページ作成技術を教えてくれるとなれば勝浦高校へ行かせると思いますが、農業自営者育成といった漠然とした進路先では行かせようと考えないと思います。また徳島医療福祉専門学校に入学できるとなれば、そこは地元でもあり、親は勝浦高校へ行かせようとするはずで、進路先を絞り込んで具体的に示し、そのためのコースとした方が、ずっと分かりやすく魅力的となります。

ところで、徳島医療福祉専門学校には、ここ2、3年で、何人くらい進学していますか。

事務局

ここ2年間はありません。高校入学当初は希望していましたが、3年間の間に志望が変わり、歯科技工士になった者がいます。地元中心に希望する者はいませんが、それが毎年、継続して続いていかないのが実状です。

委員

現在、リハビリは人気があり、地元だし、レベルも高く、競争も激しい、そんな中で進学できるとなれば、大きな魅力となります。また、阿南高専が日亜化学と連携することとなりましたが、阿南高専に進学しLEDを学習すれば日

亜化学の研究部門に就職できると考えられるようになります。そのように、進路を具体的に見せることが大切です。

委員

先程、県教育委員会から、分校と本校は差がないと言われましたが、それは間違いありませんか。

委員

私の聞いたところでは、分校になったら、本校として今ある就職や進学のおすすめはなくなるのではないかと言う人がいるのですが、どうなんですか。

県教育委員会

求人や進学のおすすめは、学科の特色に応じて依頼がくるわけですから、分校になったからといってなくなることはありません。さらに、これまでの勝浦高校の実績もあるので、そういったものは継続されると考えています。

委員

結論もでないままに会が進められ、次の協議会では、さも決まったように資料を提示されるのは止めていただきたいし、それよりもこの場でもっと議論していただきたい。

委員

学科を4つに増やしてください。

県教育委員会

生徒数を考えると4つの学科にするのは難しく、2学科程度しか置けません。基本的に人数が集まらなくて、再編の話がでてきていることをご理解いただきたいと思います。

委員

徳島医療福祉専門学校へ進学できるようにするには、学科は増えるはずではないでしょうか。

県教育委員会

そうではなく、新しい学科を、ニーズに応えられるような学科にしていけばよいと考えます。希望に合わせて学科がどんどん増殖していくのでは、人数が収まりません。

委員

議論が平行線をたどっておりますが、県教委からは分校とならざるをえない理由を十分ご説明いただきましたし、また委員の皆さんの思いも十分わかっていただいたと思います。また、分校で生き残っていけないかということそうではないわけで、和歌山県の日高中津分校は、1学年30名の全校生徒90名の学校ですが、生徒は生き生きとした学校生活を送っています。

私も、地元勝浦で育てていただいた人間として、委員も引き受け、会の進行もさせていただいています。より前向きなご意見をお願いしたいと思います。

委員

私たちの意見を聞き入れず、県が示した案通りでいくのであるならば、我々は意見を聞きましたとの具に使われるにすぎません。

県教育委員会

そうではありません。2学科程度しか置けないから、その学科の中身についてご意見をいただきたいと申し上げます。

委員

私は、地域協議会では、分校には反対で、本校とした上で活性化案を考えるというのであればおかしいと思います。すでに県で決められた分校という前提で活性化案を考えなさいというのでは納得できません。順序が違うように思います。

県教育委員会

冒頭でもご説明いたしましたが、全県的な高校再編のあり方について、民間の委員にも入っていただき、2年かけて議論をしていただきました。中間報告の段階では、勝浦郡は「現状の存続が難しい」となっておりますが、地域の方々からのご要望もあり、最終的に「農業教育を基本に分校として存続を図る」との結論が出たわけです。県教委では、その報告を受けて、高校再編方針を策定し、県下の7地域で再編を進めているわけです。地域によっては2校を1校に再編しますが、勝浦高校は「分校として存続を図ります」というのが、県教委の方針です。その前提に立って、きらりと光る学校となるよう知恵をいただきたいと思います。

委員

地域協議会として、分校には反対との意見をまとめても、強制的に分校化は進められるものなのでしょうか。

県教育委員会

分校で存続を図ることは決まっておりますので、その方向で協議をお願いし結論を出してくださいというのが、この地域協議会の趣旨です。

分校で頑張り、人気が出て、倍率が上がれば、その時点で再度考えればよいと思います。

県教育委員会

勝浦高校の現状は、進学希望が非常に少ない。だからこそ、知恵を出して魅力ある学科づくりをして希望者の集まる学校にしませんかと申し上げています。希望が集まれば、次の施策も考えることができます。今の勝浦高校の現状を認識して、生徒が集まる方策を考えていただきたいと思います。この学校を目指して来てくれるような生徒をつくっていかないと、生徒が来たい学校にしないと、将来に渡って継続的に残っていくことは難しいと考えられますので、そんな議論をお願いしたいと思います。

委員

先程、他の委員が言われた、就職を考えた学校づくりや、進路先が決まって学科が決まるなどの意見が反映された資料を、再度つくっていただけるような労力はかけていただけないのでしょうか。

県教育委員会

学科の中身についてのご意見ならば十分反映することができます。

委員

子どものことを思うと、少なくなるよりも人数の多い方が、クラブとか学校の活性化になるのでないかと言っています。

県教育委員会

そのことは充分理解していますが、その前に現状を踏まえていただいて、本当にこの学校に来てくれる生徒づくりをし、そのために、教育内容や将来の出口の見える学科づくりをしたい。そのためのご意見をいただきたいと思っています。

委員

もう少し細分化して、3つとか4つの学科を置いたらどうかと提案しているのに、総数が決まっているので無理ですでは、それ以上の意見は言えません。県がつくった意見になるように進められるのでは、委員としての意味がありません。

県教育委員会

今までの第1回、第2回の話し合いの中で出た、農業を基本にバイオ、IT、LEDという方向に展開していきましょうというご意見を踏まえて、この案をつくっています。

委員

委員の思いもわかりますが、第1回、第2回目と同じ議論の繰り返しとなっています。後は県の方で、今の意見を精査していただけるようお願いいたします。

(3) 学校間連携、及び地域との連携について

事務局

これまで、勝浦高校が取り組んできた学校間連携、地域との連携のいくつかを紹介します。

連携をするにあたっては、「子どもの幸せ、学習の必要性」、「双方にとってのメリット」、「期待される学習効果」の3つに重点を置いて取り組んでいます。また、営みの様子として、「学びの連続性」、「学校間の学習交流」、「人権教育の推進」、「学校と地域企業とのパートナーシップ」、「地域活動」、「先輩に学ぶ」の6つを考えています。

- ・横瀬、生比奈小学校と、食農教育を通じた交流
 - ・勝浦中学校と、部活動（人形浄瑠璃）を通じた交流
 - ・那賀高校と、小型車両系建設機械の資格取得に向けての講習会、介護体験の実施
 - ・ひのみね養護学校と、野菜づくりを通じた交流
 - ・町内の高齢者福祉施設での園芸セラピーを活用した交流
 - ・勝浦病院に癒し空間を提供する取組として、花壇の設置
 - ・インターンシップの実施（キンキサイン、上勝バイオ、ガソリンスタンド）
 - ・上勝町のゼロ・ウェイストアカデミーでの体験学習
 - ・PTAと共同で学校周辺の清掃活動の実施
 - ・環境保全活動の一環として上勝町檜原の棚田の草刈り作業
 - ・上勝町の花であるリンドウを組織培養し、町に提供
 - ・町内のイベントに合わせて、ハナモモの鉢植え栽培と飾り付けを協力
 - ・卒業生の先進農業者より技術と栽培方法を学ぶ（キュウリの接ぎ木）
- 以上が、これまで実施してきた連携の概要です。

委員

近隣の高等学校の概要を一覧表にさせていただいてますが、今の他に、学校間連携で考えられることはありますか。

事務局

- ・ 小松島西高校：商業科...オリジナル商品の開発と商標登録
食物科...食育の研究
福祉科...園芸セラピー
- ・ 阿南工業：LEDの基盤製作，草花装飾台の製作
- ・ 城南高校：植物組織培養に関する授業体験の実施
- ・ 県下農業高校（城西高校，城西高校神山分校，阿波農業高校，三好高校）
：出前講座の交流，農高フェアーの開催
- ・ 徳島医療福祉専門学校：福祉関係体験授業
- ・ 徳島大学：薬草栽培に関する学習や技術指導

などが考えられます。

委員

これについては、相手校の事情，予算の問題等がありますから、今挙げたすべての内容を実施することは難しいと思いますが、県教育委員会も間に入り、実現できるよう配慮をお願いします。

次に、地域との連携について、事務局よりお願いします。

事務局

- ・ 地域の人々：「農業開放講座」の実施
- ・ 勝浦町：パイロットファームの再活用
- ・ J A 上勝：ハワサビの増殖・培養
- ・ 「よってネ市」，「彩」：販売・流通システム
- ・ 日亜化学工業：LEDの活用技術
- ・ 徳島県農林水産総合技術支援センター：体験学習，柑橘栽培技術の研究
などが考えられます。

委員

中学校との交流だけを見れば少ないと思います。学校の魅力や先輩の活躍の様子を知るには、もっと連携を深めていくことが必要でないかと考えます。そうすれば、中学生がこの学校で学びたい，行きたいにつながっていくことになると思います。

委員

各委員の方々より，勝浦高校の将来を思っの暖かいご意見をいただき，また今後の学校経営にも熱い思いがあることを感じました。私は地域協議会の委員ではありますが，事務局と一緒にって原案作りにも携わってまいりました。先程，委員の意見が反映されていないとのご意見がありました，事務局内では必ず大論議をし，何らかの形で反映してきていることも見てまいりました。

勝浦高校が分校になることに関してですが，人口の少子化の現状を見ますと，存在そのものを議論するときが，数年先に来ています。我々はどうしても育ってきた環境の中で考えてしまいがちですが，今までの教育概念と違った考えで学校の経営を考えないと，学校は潰れてしまいます。定員を80名に拡大し半分も来なかったら，存続そのものが難しいことになります。皆さんご承知のアメリカにあるバークレー校は分校ですし，有名なUCLAもカリフォルニア校であり，いくつかの大学があってその中の1つです。勝浦校も，本校がどこになるかはわかりませんが，本校，分校とかでなく，互いが違うキャンパスの中で生き残っていくことを考えるような発想を持たないと，少子化の子ども達を支えきれないと思います。

地元の方の熱い思い，町に高校は必要である，そういう思いも大切にしながら，事務局共々，委員の意見を反映しながら，新しい図面づくりに尽力していきたいと考えています。

委員

本日は，「目指す学校像」，「育てたい生徒像」，「設置学科と教育内容」，また「特色ある教育」として，「学校間連携」，及び「地域との連携」について，ご協議していただきました。